

# ミステリー セレクション

推理小説、

もっとも好きになっちゃおう!!

## 『僕と先生』 坂木司／著 双葉社刊

隼人くんは、ミステリーが好きな中学生。怖がりなのに、大学の推理小説研究会に在籍する二葉に、アドバイスしてくれる存在だ。ある日ふたりは、デパートのチョコレートフェアに出かける。フェア会場はお客で混雑していた。そんな中で、グループ詐欺事件と窃盗事件が発生。ふたりは真相を探るため調査を始める。チョコレートから始まる悲しい事件の真相とは？



## 『王とサーカス』

米澤穂信／著  
装丁+写真:岩郷重力+K.K  
東京創元社

フリージャーナリストとしてネパールに降り立った太刀洗万智。彼女の滞在中に王族殺害事件が発生する。悲しみを露わにしていた国民が、次第に混乱する情勢に、憤る国民へと変貌する。外出禁止令が布かれるほど緊迫する危険な状況下で、冷静沈着にジャーナリストとして、事件を探る太刀洗の推理眼が冴え渡って格好いい。シリーズものだが、本作品から読み始めても面白い内容だ。1作目の『さよなら妖精』もおすすめ。



## 『カクレカラクリ』 森博嗣／著 講談社

天才絡繰り師・礒貝機九郎により、120年後に動き出すよう設計されたカラクリが、鈴鳴村で目覚める年が来た。どこに眠っているかわからない、カクレカラクリを探し出すため、この村に足を踏み入れた荒廃マニアの大学生、郡司と栗城が動き出す。ふたりが好意を抱く同じ学部の花梨は、鈴鳴村の生まれ。彼女と妹の玲奈も加わり、礒貝機九郎の手掛かりを探していくが…。



## 『ケーキ王子の名推理 (スペシャリテ)』 七月隆文／著 新潮社文庫刊

高1の未羽は超スイーツ好き。美味しそうなケーキ屋さんを発見し入ってみると、同級生の颯人が弟子として修行していた。彼の鋭い観察力とスイーツの知識。そして、断片的な事実であっても導き出せる推理力で事件は鮮やかに解決される。登場するスイーツは文章だけでも美味しさが伝わってくる。新感覚スイーツ×ミステリーをぜひ、ご堪能あれ！



## 『名前探しの放課後 上』 辻村深月／著 講談社

依田いつかは朝起きると、数ヶ月前の過去にタイムスリップしていた！このチャンスを活かし、タイムスリップした過去で同学年の生徒の自殺を阻止しようと考えた。しかし、一番肝心な「誰が」自殺したかを覚えていなかった。思い出そうとしても自殺したクラスメートの名前は空白のまま。果たして、自殺を阻止できるのか？自分なりにこれだ！と思い推理しても作者の巧みな文章に騙され読破後に脱帽感を感じるミステリー作品。

